

令和4年度 学校だより 10月号 9月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

非認知能力

校長 前島 潤

童謡「むしのこえ」。登場する虫はマツムシ、スズムシ、コオロギ、クツワムシ、そしてウマオイ。秋の夜に聞こえてくる虫の音として歌の中で紹介されています。この中で、現在、山元小学校で聞くことができるのはコオロギのみです。マツムシやスズムシの音を聞くことは、都市部の環境では難しくなりました。それでも、私たちは、アオマツムシやカネタタキなど、都市環境にも適応した虫たちの音を楽しむことができます。虫の音を楽しむことは、世界的には珍しい文化のようです。日本では、平安時代の貴族が虫を飼って、その音を楽しんでいたことがわかっています。秋の夜風に美しい月、そして虫の音。心がほっとしますね。

9月1日(木)、2日(金)。4年生と5年生合同の御殿場宿泊体験学習を実施することができました。雨天が続き、富士山は、裾野の辺りしか姿を見せませんでした。日中も涼しく、参加した児童は、皆元気に二日間を過ごしました。

今回の体験学習に同行した私のトピックは、竈で薪に火をつける体験です。子どもたちは、新聞紙を着火材にして薪に火をつけ、火にかけた鍋の水を沸騰させてレトルトカレーを温めました。事前にレクチャーはありましたが、実際やってみるとうまくいきません。屋根付きの炊事場とは言え、雨の中での活動でしたので、薪に火がつきにくかったのかもしれませんが。それでも子どもたちは、薪に火をつける必要感から主体的に問題解決に挑みます。

なかなか薪に火がつかなくても粘り強く取り組むグループ、先生やボランティアの方にコツを聞いて取り組むグループなど、問題解決に向けて多様な姿が見られましたが、どのグループにも共通していたのは、協働的に取り組んでいたことです。

思いを一つにして、竈を囲み、みんなで苦勞した分、カレーの味は、いつもよりおいしく感じたようで、どの子も素敵な笑顔を見せながら食べていました。

食事を終えた片付けの場面でも協働的に取り組む様子を見ることができました。役割分担し、声を掛け合って、誰も手を抜かずに手際よく片付ける姿に感心しました。子どもたちの頑張りで、炊事場は使用する前よりもきれいになりました。

これからの社会を生きる子どもたちには、生活や社会の中で出合う課題の解決に向けて、学習したことを主体的に活用し、協働していく力が必要であると言われています。4・5年生の宿泊体験学習で見ることができたように、山元の子は、問題の解決に向けて他者と協働していく力があります。数値で測ることのできない力、いわゆる非認知能力と呼ばれる力です。

今、非認知能力と学力の関わりが注目されています。非認知能力と学力に正の相関関係があることが研究等によって見え始めているからです。

これからも、数値で表すことができる力とともに、数値で表すことができない力（非認知能力）を高めることも大切にしながら教育活動を進めていきたいと思ひます。



アキアカネがやって来ました！

今年も山元小にアキアカネがやって来ました。赤トンボと言われるトンボの仲間です。暑さを嫌うので、夏は高原などで過ごしています。涼しくなる秋に平地に降りてきて、田んぼなどで産卵します。

最近、全国的に数が減っています。いつまでも山元小に来てほしいトンボです。

山元小では、9月の下旬に裏庭のトンボ池での産卵が確認されています。

